『稲穂』第17号の発刊にあたって

世の中の動きに合わせた同窓会活動へ

松原秀幸　（高19回　在京飯田高校同窓会会長）

昨年11月に開催された在京飯田高校同窓会・総会において、佐々木康夫前会長（高15回）の後任に選出されました松原です。よろしくお願いいたします。

私の在京同窓会との関わりのはじめは、10年前の第1回「東京の飯田ゆかりの地を歩こう会」に参加したことです。それがご縁となり、その後の同窓会活動に関わることになりました。

新型コロナウイルスの感染拡大は、さまざまな社会活動に影響が及んでおりますが、在京同窓会活動にも大きな影響を与えております。中でも、活動の大きな柱である『稲穂』の発行作業は、編集会議が半分近く中止となってしまいましたが、編集委員および執筆者の皆様のご協力、協賛広告・協賛金の温かいご支援をいただき、第17号発刊まで漕ぎつけることができました。厚く感謝申し上げます。

――「本はいいですな、先生」「本にはね、正しい答えが書いてあるわけではありません。本が教えてくれるのはもっと別のことですよ。ヒトは一生のうち一個の人生しか生きられないが、本は別の人生があることを教えてくれる。沢山の小説を読めば沢山の人生を体験できる。そうすると沢山の人の気持ちがわかるようになる。」――これは、信州松本を舞台に、映画化もされた長編小説『神様のカルテ』（夏川草介著）の中で、入院中の余命いくばくもない元国語の先生と主人公の内科医の会話の一節です。

まさに、『稲穂』は「とっておきの短編の作品群」です。琴線を揺さぶる作品の一編一編は、故郷で過ごした青春時代の記憶に共鳴する物語です。涙し、沢山の感動を与えてもらえます。そして、社会人となった同窓生の活躍の物語を知り、飯田高校卒業生としての自負を抱きます。

『稲穂』は、より多くの皆さんに投稿していただけるようになりました。是非お読み頂くとともに、今後とも、皆様の「とっておきの物語」の積極的な投稿をお願いいたします。

在京同窓会活動について

6月開催の在京同窓会・幹事会において、本年11月アルカディア市ヶ谷で開催予定の在京同窓会定期総会の変更を決定いたしました。詳細は別途送付のご案内をご覧ください。

在京同窓会は昨年11月に新体制が発足し、第1回幹事会において今後の活動方針を承認いただきました。

○活動方針
・「郷土愛と母校愛を醸成し、同窓生をつなぐ」のテーマのもとに、先輩方が築かれた同窓会活動を継続・維持しつつ、活性化していきます。
○活動の進め方
・時代の動きに合わせ部会体制の強化や役割の見直しを行い、必要に応じて部会の新設置をして参ります。
・ITを有効活用した効率的な活動を進めて参ります。

今後とも、皆様の相変わらぬご支援をよろしくお願いいたします。

●まつばら・ひでゆき　上飯田出身。1971年沖電気工業入社、通信システムの開発・設計に従事、技術部長、事業企画部長、事業推進部長等を経てＯＫＩコンサルティングソリューション社長、現フェロー。趣味は、本読み・週に１作品程度（純文学）、スポーツジム。